

表 8-小 E.FORUM スタンダード (第 1 次案) : 小学校家庭科 (北原琢也編集)

小学校・中学校・高等学校家庭科 (方法論に関する包括的な「本質的な問い」) :
 ・どうすれば、生涯を通じてより望ましい生活を創造することができるのか。

小学校家庭科 (方法論に関する「本質的な問い」)
 ・どうすれば、家族と健やかに生活することができるのか。(どうすれば、自分の生活を理解できるのか)

内 容	家庭生活と家族	日常の食事と調理の基礎	快適な衣服と住まい	身近な消費生活と環境
内容の本質的な問い	・家族・家庭とは何か。(家族・家庭は必要か)	・人間と食べ物とはどのような関係なのか。(なぜ、食べるのか)	・人間と衣服・住まいとは、どのような関係なのか。	・消費と環境は、どうあるべきか。
小学校 第 5・6 学年	本質的な問い	・どうすれば、よりよい家庭生活を送ることができるのか。	・冬を暖かく、快適に暮らすための住まい方はどうあるべきか。(中西優子先生)	・ものを大切に使うとはどのようなことか。
	永続的理解	・家庭生活での自分の位置づけを知り、家族や近隣の人々の存在や役割について認識するために、まず、「親と自分(子)」の関係を理解することである。次に、その関係を通して「自分とキョウダイ(兄弟姉妹)」関係を認識し、同世代の仲間意識を体験的に学ぶことや、「自分(孫)と祖父母」といった異世代間の人間関係を学んでいくことである。そして、「自分と近隣の人々」とのよりよい関係(交流)づくりの素地を身に付けることである ² 。	・人間が生命を維持・活動・成長するために必要な五大栄養素(炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン)の種類を知り、食品の 3 つの栄養的特徴(身体のエネルギー源・身体の形成・身体の調整機能)の働きを理解することである。次に、これらのグループの食品を組み合わせることにより、栄養のバランスがよい食事になることが理解し、1 食分の調理計画や調理などの初歩的な調理の知識や技能を身に付けることである。	・自分の日常生活で多くのものの活用や消費、家庭生活を取り巻く身近な環境とのかかわりを理解し、ものを大切にし、長く活用したり、無駄なく使い切り、使い終わったものを他に再利用したりするなど、環境にやさしい生活を実践することである。また、地産地消やリサイクル活動などの環境に配慮した地域の取組にも積極的に参加・協力することである。
	課題例	〔課題例 1〕【家族に感謝の気持ちを伝えよう!】 ・あなたは、家族に日頃の感謝を伝えることになりました。1 年間を通して、下記の視点を参考にして、感謝の文章を書き発表しましょう。 ◇ 感謝を伝える時期 ◇ 自分の生活の見直し ◇ 自分と家族生活の工夫	〔課題例 2〕【健康的な生活を送る 1 食分の食事を作ろう!】 ・あなたは、家族が健康的な食生活を営むための 1 食分の調理実習を発表することになりました。内容は、我が国の伝統的な日常食の米飯とみそ汁を中心とした食事です。下記の要点を考えて計画書を作り、調理をしましょう。 ◇ 栄養素の種類とそのバランス ◇ 地産地消の工夫 ◇ 調理の初歩的スキル ◇ 食事の仕方の工夫	〔課題例 3〕 ・あなたは、快適な住まい方を提案するプランナーです。そこで、住まいの問題に頭を悩ませている家族から快適に暮らすための方法を提案するように依頼がありました。そこであなたは、現在の住まいの問題点について、その根拠を明らかにし、家族全員が寒い冬にも健康で快適に住む方法を提案するための、住まい方パンフレットを作成することになりました。 (中西優子先生)

1 E.FORUM Online (EFO) (http://efo.educ.kyoto-u.ac.jp/) unit254 より引用 (中西優子先生が作成された資料を使用し、北原が一部加筆)。

2 日本家庭科教育学会編著『家庭科の 21 世紀プラン』家政教育社、2000 年、128-130 頁参照。